

楽器開発のベストブラス（浜松市、浜永康太社長）が独創的な商品を相次いで生み出している。

金管楽器用の長さが異なるマウスピースや小型の消音器など、伝統を重んじるクラシック音楽の世界でも、革新性への評価は高い。創業者の高い技術力と、2代目社長の営業力で音楽界に新風をふき込む。

「トランペットなど金管楽器製造の世界は百年前からあまり進化していない」。浜永社長の実感

だ。金管楽器には古くから「名器」と呼ばれる世界標準モデルがあり、「新」モデルといっても基本設計は昔のものと変

ベストブラス

派力実にはたかおか

《会社概要》

▽所在地	浜松市南区西町314
▽事業内容	管楽器と周辺器具の開発、製造
▽設立	1999年
▽従業員数	4人
▽売上高	1億1000万円 (2012年3月期)

わっていないことが多いという。

同社が開発した口と楽器を結ぶマウスピースは長さが異なる。演奏者が使い分けることで、出したい音程や微妙な音の高さを調整できる。プロ演

奏家や上級アマチュアの間で利用が広まりつつある。

これまでのマウスピースはメーカーや形状が違っても長さはほぼ一定なのが「常識」だった。音の調整は楽器の管の抜き差しで長さを変えて対応することが多かったが、「極端に長さを変えようと内部の空気の流れが乱れ、良い音を引き出せない」。

とはいえ、単純にマウスピースの長さを変えただけでは不十分。口につける部分の空洞の半径や深さなど、最適な形状を細

破る常識の金管楽器



今後は金管楽器本体の開発にも力を入れる

かく計算して設計した。内側の表面を特殊加工し、細かい溝もつけた。これにより、高音や低音が楽に出せるといふ。起業後にまず手掛けたのが、金管楽器の先端につけて音量を小さくする消音器。自然な音質と吹きやすさを維持しながら

ベストブラスはヤマハら、従来に比べサイズや重量を約半分抑えた。長が1999年に立ち上げた。ヤマハではトランペットなど金管楽器の研究開発一筋。楽器本体の部品からすべて設計できる国内でも数少ない技術者がだ。国内での評価を高めたのがサクスの消音器。サクスには穴が複数空

いているが、楽器全体を覆うケース型にすることで消音を可能にした。年間に数千個売れたヒット商品だ。

浜永社長は開発専従の父親に代わり、販路開拓や市場分析で海外を飛び回る。自ら「ものおじし」と称する性格で父親と意見をぶつけ合いながらさらなる成長を目指す。

「常に挑戦して新しいものを生み出す」が企業理念。今後は古いモデルが多いトランペット本体の開発にも力を入れる。浜永社長は「伝統的な金管楽器業界を、もっと華やかで活気ある世界にしたい」と張り切る。